



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日	増減	前週比	累計	イベント	需給予想	イベント	
2/8 (月)	+ 400	▲ 6,500	▲ 6,100	短国発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 400	国債買入 + 6,700 社債等買入 + 3,000 ETF買入 + 600	日：国際収支：経常収支(12月)、貿易収支(12月) 米：クリーブランド連銀総裁講演
2/9 (火)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	国債発行 (物国10年)			日：毎月勤労統計(12月)
2/10 (水)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	短国発行・償還 (6M)			米：CPI(1月)、卸売在庫(12月)、パウエルFRB議長講演
2/11 (木)				建国記念日			欧：欧州委経済見通し
2/12 (金)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000		共通担保 (全) ▲ 4,000		英：GDP(4Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初494兆1,700億円から始まった。3日には税・保険揚げがあり485兆4,300億円まで減少した。その後、国債買入オペなどがあったが日銀当座預金残高に大きな動きはなく485兆5,200億円を越えた。無担保コールON物加重平均金利は、週初日積み要因が剥落したこともあり△0.016%となった。その後、地銀業態を中心としたビッドサイドの調達意欲が強く、△0.013~△0.011%で推移した。5日は週末3日積みであったため幅広い業態の調達ニーズが強く△0.010%となった。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.015%~△0.005%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で8日に国際収支・貿易収支(12月)や10日には中村日銀審議委員が高知県の金融経済懇談会であいさつを行う。海外では10日に米CPI(1月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

足許GC取引は、短国買入オペが実施された2日の取引で△0.09%近辺の出合いが見られたものの、以降は△0.085%~△0.075%のレンジで推移した。短国3Mの入札日となる5日の取引では、△0.08%近辺で取引された。SC取引では、3日の輪番オペ後に5年カレント銘柄でレートが低下する場面が見られた他、2年408~420回債、5年136~145回債、10年340~361回債、20年169~175回債、30年59~69回債、40年10~13回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.05 ~ 0.00
TDB 3M	△0.120 ~ △0.070
CP 3M	△0.05 ~ 0.00

<TDB>

5日の3M970回債(5/17償還)の入札は、最高落札利回り△0.0912%(前回債△0.0875%)、平均落札利回り△0.0942%(同△0.0919%)となり、入札後△0.103%~△0.102%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.104%~△0.10%のレンジ、1Y物が△0.13%近辺で取引された。

<CP>

今週の入札発行総額は約3,000億円で、週間償還額(約2,000億円)を上回った。発行市場は一部で大型案件があったものの、発行社数は限定的であり、落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末の25兆2,660億円から、4日時点で25兆4,314億円に増加した。発行レートは、△0.05%台~0%近辺での出合いであった。

来週の発行市場は営業日が少ないものの、5・10日スタート絡みの発行が見込まれることから、週間償還額の約3,400億円と同程度の発行を予想する。発行レートは、横這い圏内での出合いを見込むが、日銀オペ等の対象銘柄や期越え物に対しては、引き続き強いマイナスレートでの出合いを予想する。9日に、CP等買入オペが6,000億円でオフアーされる予定となっている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。